資料５学級規模の違いによるメリット、複式学級のメリット・デメリット

公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き
～少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～（改訂版）
令和８年８月５日　文部科学省　参照

学級規模の違いによるメリット

学級の人数が少ないことのメリット	学級の人数が多いことのメリット
一人一人の学習状況を的確に把握できる きめ細かな指導ができる	児童生徒を多様な意見に触れさせることができる
意見・感想を発表できる機会が多い	新たな人間関係を構築する力を身に付けさせることができる
様々な活動でリーダーを務める機会が多い	多様な考えに触れ、認め合い、協力し合って学びを深めることができる
運動場・体育館など余裕をもって使える	時には競い合って学びを高める環境をつくることができる
教材・教具などを行き渡らせやすい	クラブ活動や部活動などの規模や種類が豊富に設定できる
異年齢の学習活動を組みやすい 体験活動や校外学習を機動的に行える	音楽科、体育科等における集団で行う教育活動が効果的に実施できる
地域の協力、郷土の教育資源活用がしやすい	運動会、文化祭、修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が上がる
家庭状況、地域の教育環境を把握しやすく、保護者や地域と連携した生徒指導ができる	進学等の際に大きな集団への適応がスムーズに行える

複式学級のメリット・デメリット

複式学級のメリット	複式学級のデメリット
教師が複数の学年間を行き来する間、児童生徒が相互に学び合う活動を充実させることができる	教師に特別な指導技術が求められる
一般的に考えられるメリット *・異学年で学び合える* *・主体的に学ぶ力がつく* *・一人一人を見てもらいやすい* *・上級生の責任感が育つ*	複数学年分の授業準備を行うこととなるため、教師の負担が大きい
	単式学級の学校へ転出時等に未習事項が生じるおそれがある
	観察・実験など長時間の直接指導が必要となる活動に制約が生じる
	兄弟姉妹が同じ学級になり、指導上の制約が生じる可能性がある